



2026/6/1 - 審判判定基準一型

# 国際空手道連盟総本部極真会館 手塚グループ資料

<http://karate-tezuka.net/>  
[honbu@karate-tezuka.net](mailto:honbu@karate-tezuka.net)

# 型の判定基準

極真手塚グループ主催の試合においては下記の基準をベースとして判定します。

その為の研修などを行い徹底するよう各本部・個人は務める。

但し、人間が判定する以上、判定に個別性があることも留意する。

極真手塚グループは型を空手（心技体）、ひいては人間力の練磨の為にあると考えます。その拳に威力(重さ+スピード+抗反力)はあるのか、その移動は地面を蹴らずに前進力(重心移動)はあるのか、その呼吸や息吹は自然の理にかなっているのか、礼節・姿勢等、審判の眼力が最高に問われる事を審判は自覚する。

- ・ 礼節 / 姿勢 / 身だしなみ

- ・ 立ち姿=不動立ち、不動姿勢（力まず締まり、全身が連動している。）

  - 目安：重心、体軸、目線、口元などのあり方。

  - 目安：力まずゆるみがあり、締まって連動している。

- ・ 型名宣言の声の大きさは判定には考慮しない。（審判に明瞭に聞こえれば良い）

- ・ 形の順序内容の正しさ

  - 注意：オープントーナメント（他流派参加の試合）は上記を判定基準にあまり考慮しない

  - 極真空手では、「力強さ>形のきれいさ」とする。

  - 力強さとは、力みや声の大きさではなく、威力を生み出す動作です。

  - 目安：例 - 手首・足首の状態（正しい締まり）など多数。

- ・ 呼吸・息吹（全身呼吸、肚、背中など）、全身に気が満ち溢れる

  - 目安：呼吸で前後動していない

- ・ 移動

  - ・ 重心が落ちている（腰位置の高低ではない）

  - ・ 重心移動、地面を蹴っていない。

  - ・ 重心が水平に移動している（すり足になっている）

  - ・ 体軸。移動時左右にぶれていない、前のめりになっていない

  - ・ 不十分な移動で踏み直しをしていない

  - ・ 膝が抜けていない

  - ・ 目線：残心ができている、仮想敵（イメージ）を見据えている



- ・開始位置へ正しく戻る（太極・平和などに限る）
- ・技の練度
- ・全身連動動作をしている（肚、ねじり、締め、止めなど）
- ・単関節運動になっていない。
- ・筋力運動にとどまらず、腱・靭帯も使えている。
- ・手足から動作せず中心と連動して動いている、不必要な前後動をしていない
- ・技が流れずにきまる（目標で完全停止する）
- ・両手・両足が連動している（特に引き手の価値が発揮されている）
- ・わきが締まっている（わきの開閉ではない）
- ・拳が正しく握れている（握り直しはしない）
- ・歯を食いしばっておらず（緊張せず）気合が充実している
- ・減点
  - ・礼節を欠く行為（2人同時の場合、相手を妨害するなど、その他）
  - ・作為的な音だし（無意味に体を叩くなど）
  - ・ふらつく、立ち止まる（1秒以上動作止まる含む）
  - ・明らかな間違い
  - ・その他

## ■型の種類が違う選手の対戦の場合

基本ベースとして型の種類での判定に差異はつけません。

但し、より上級の型（動作レベルが高い、下記表）を同程度の内容で打った場合、動作レベルが高い型を同内容で打てているため、上記の判定基準に照らし合わせ動作が優れていると判断しますので、同内容の場合は上級型が優位となります。

太極Ⅰ～太極Ⅲ < 平安Ⅰ～Ⅴ < 安三 / 最破 / 撃砕小 / 撃砕大 / 突きの型  
< 征遠鎮 / 観空 / 五十四歩 / 転掌 / 臥龍 / 十八

- ①同程度の内容で型を打った場合：上級の型の勝ち
- ②上級の型の内容が上回っている場合：上級の型の勝ち
- ③上級の型の内容が明かに下回っている場合：上級の型の負け（特に間違いや、ふらつきなど）
- ④その他、微妙な差異の場合は審判の判定にゆだねる。